

コ ラ ム

西鶴・国文研・パリ

Daniel Struve(ダニエル・ストリューブ)  
フランス・パリ第七大学助教授

国文学研究資料館の客員研究員として六ヶ月間滞在して研究を進められたのは本当に有り難い有意義な経験だった。二年前の国際日本文学研究集会に参加させていただいた時に発表テーマに選んだ「西鶴と『徒然草』との関わり」という研究テーマは昔から興味を持っていて、いつか真剣に考えたいと思っていた問題だった。

大学などの雑用を離れて、パリではなかなか揃わない定期行物や豊富に集められた江戸時代の資料に至るまで、ほとんど無限に思われる資源を自由に使って、恵まれた環境で過ごすことができた。この六ヶ月間は夢にも思わなかったうれしい機会だった。広いテーマを『好色一代女』の一作品に絞り、資料館の利便を活かしてできる限り徹底的に調べることができた。

私の研究に役立ったのは資料だけではなく研究者同士との交流の機会が設けられたことであった。西鶴や他の日本文学の専門家たちに調べてもらったりして、いろいろ刺激を受け、自分の

研究をより正確に現在行われる西鶴や江戸文学の研究の流れに位置づけることができたかと思う。特に8月23日、24日と二日間続いて開かれた共同研究と西鶴研究会の会議は、忘れがたい充実した時間だった。

桜の満開に少し遅れて肌寒い四月の上旬に来日してから、忙しいだけに季節は速やかに変わっていくように感じられた。例年よりやや長い梅雨や案外に凌ぎやすい八月の暑さの後から、あっという間に秋の兆しが歴然する九月になった。これから帰るパリ第七大学も引越しが寸前に迫ってきた。それと同じように、資料館も戸越を去って立川に移って新しい段階を迎えようとしている。どこも変化が激しい時代のような。豊かな木立に包まれた、静かなこの戸越の敷地は惜しまれてならないが、今後の繁栄を祈ってやまない。

蝉しぐれやおおろぎの鳴き声を耳にしながら、コンピュータに向って読書や執筆に耽って過ごした日や夜は、私の記憶の中に長くとどまるだろう。

表紙絵解説の訂正

前回発行分(No5)の表紙絵(近世水滸伝)の解説文に誤りがありましたので、以下に正しい解説を掲載します。

「平手壹岐(ひらでいき) 市川小団次」大判錦絵、文久2年(1862)7月改印。3代目歌川豊国画。仮名垣魯文暗記の略伝。講釈『天保水滸伝』では、北辰一刀流(ほくしんいっとうりゅう)の達人平手造酒(ひらてみき)。千葉周作門下であったが破門され、笹川繁蔵の客分となる。天保15年8月の飯岡一家の殴り込みの際、大勢を相手に防戦し死ぬ。似顔で描かれる4代目市川小団次は、この時は座頭(ざがしら)も勤めるほどの人気と実力を持ち、特に下層階級の人物を写すことに優れていた。



国文学研究資料館ニュース No. 6

発行日 平成19年 1月29日  
編集 広報委員会  
発行 人間文化研究機構 国文学研究資料館  
National Institute of Japanese Literature  
〒142-8585 東京都品川区豊町1-16-10  
TEL:03-3785-7131 Fax:03-5751-7166 <http://www.nijl.ac.jp>  
印刷所 有限会社 スミダ

©人間文化研究機構 禁無断転載

当館では、古典籍及び凶書の寄贈を受け付けております。御刊行・御所蔵の資料を広く研究に活用させていただくために、皆様のご協力をお願いいたします。